

[illegible][illegible]

青春を歌う。季節を歌う。愛を歌う。自然を歌う。「うた」は、人々の口をついて素朴に流れ出る感情の発露。素敵な「うた」をいっぱい、宝箱のように詰め込んだ。生徒たちの心に刻まれるのは、どの「うた」だろうか。

高校生の音楽2 p.22「Wiegenlied」
各セクションのリード文が芸術の世界へと誘う

[illegible][illegible]

「名歌名曲主義」を掲げる音楽之友社の教科書は、新旧問わない音楽性豊かな選曲眼こそが真骨頂だ。領域ごとに配置したB5版でのオーソドックスなページ構成は、音楽出版社としての確固たる信念の表れ。

高校生の音楽3 目次
すっきりと配置され、目的の教材がすぐ見つかる

音楽をより深く知るために、解説、資料は「適所に適量」用意されていることが大切。教科書として備えているべき必要にして十分な資料が学習を強力にサポートし、コラムが視野を広げてくれる。

高校生の音楽2 p.2「西洋音楽の流れ」
西洋音楽史の新しい視点を提案(指導書p.124参照)

[illegible]

ルネサンスから20世紀の音楽まで、数々の名曲をコンパクトな解説とともに。古今東西の音楽との出会いは、生徒自身も知らなかった意外な感情を呼び覚ますだろう。

【左】高校生の音楽1 p.121「表現形態のいろいろ」
鑑賞領域の導入として様々な演奏形態を概観できる

【右】高校生の音楽1 p.139「チンチリレンの合方」
豊富な譜例で実際に音を確認めながら学習できる

[illegible][illegible]

歌唱教材

器楽教材

ギターもリコーダーも、もちろん和楽器もお手のもの。幅広い難易度から、習熟段階に合わせて選ぶことができる。6重奏まであるから、仕上がった時の充実感は格別だ。

【左】高校生の音楽1 p.106「あゝ人生に涙あり」
和楽器アンサンブル、洋楽器での演奏も可能

【右】高校生の音楽2 p.68「Don't Mind」
発表に耐えうる音楽的なボディ・パーカッション

資料・コラム等

鑑賞教材

創作教材

「耳をすませば一人間が音楽を想像し、創造してきた根源になる要素がそこにあるかもしれない」(高校生の音楽1より)。たった2音から始めるちいさな旋律の創作が、全く新しい音楽体験を拓いてゆく。

高校生の音楽1 p.114「音素材を生かしてつくろう」
機材を使わない，声や身体を素材にする創作も提案